

横浜市教育委員会
臨時会会議録

- 1 日 時 平成27年1月23日（金）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 西川委員 間野委員 坂本委員 長島委員 岡田委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

平成 27 年 1 月 23 日（金）午前 10 時 00 分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
平成 27 年「成人の日」を祝うつどいについて
第 2 回横浜市児童・生徒指導中央協議会の開催報告について
- 3 審議案件
教委第 67 号議案 横浜サイエンスフロンティア高等学校中高一貫教育校化に関する
基本計画について
教委第 68 号議案 平成 27 年度歳入歳出予算案に関する意見の申出について
教委第 69 号議案 平成 26 年度歳入歳出予算案（2 月補正）に関する意見の申出につ
いて
教委第 70 号議案 平成 26 年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の決定について
教委第 71 号議案 平成 26 年度横浜優秀教員表彰に係る被表彰者の決定について
教委第 72 号議案 教職員の人事について
- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

今田委員長

おはようございます。それでは、ただいまから教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。

12月19日の会議録の署名者は、間野委員と長島委員です。

会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、前回1月9日の会議録については、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。

岡田教育長

【教育長一般報告】

1 市会関係

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 1/12 「成人の日」を祝うつどい
- 1/15 第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会
- 1/17 横浜教育実践フォーラム
- 1/20～ 第57回横浜市立小・中学校個別支援学級・特別支援学校合同学芸会・合同発表会
- 1/22 第58回横浜市学校保健大会

(2) 報告事項

- 平成27年「成人の日」を祝うつどいについて
- 第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会の開催報告について

報告いたします。

主な会議等ですけれども、1月12日「成人の日」を祝うつどいを横浜アリーナで開催し、今田委員長に御出席をいただきました。後ほど所管課から報告させていただきます。

1月15日、第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会を県立青少年センターで開催をいたしました。こちらも後ほど所管課から説明をさせていただきます。

1月17日、横浜教育実践フォーラムを開港記念会館で実施し、今田委員長、西川委員、長島委員に御出席をいただきました。

午前中は、基調講演とシンポジウム、午後は、分科会の2部構成で実施いたしました。

基調講演は、体操の史上最年少金メダリストになりました白井健三さんの父親の、白井勝晃さんが御講演されました。白井さんは20年間の教職経験を経て、現在、体操クラブを開いておられて、今回「夢をつかみとるには」という題で基調講演をしていただきました。その後のシンポジウムは、白井さんと文部科学省の田村教科調査官、そして、コーディネートを教育政策推進課担当課長が行いました。

分科会は9つの内容に分けて、午後を実施いたしました。

1月20日から2月20日までの間に、第57回横浜市立小・中学校個別支援学級・特別支援学校合同学会・合同発表会を実施しております。

中学校は1月30日までですけれども、西公会堂で実施し、小学校は各区で実施していきます。

1月20日に実施した中学校の西区、旭区、都筑区、神奈川区の時には西川委員に御出席をいただき、1月21日に実施した中学校の南区、港北区、青葉区の発表の時には長島委員に御出席をいただきました。

1月22日、第58回横浜市学校保健大会を県民ホールで実施いたしました。西川委員に御出席をいただきました。「生涯を通じて健康でたくましく生きる児童生徒を育成するため、学校保健の充実発展に資する」ことを目的とした大会ですけれども、これまでの功績に対する表彰式も兼ね、また研究発表等も入れて実施をいたしました。

報告は、以上です。

今田委員長

教育長の報告が終了しましたが、御質問等ございましたら、どうぞ。よろしいですか。

西川委員

質問ではなく、一言よろしいですか。昨日の学校保健大会に私も参加させていただきましたが、いろいろな表彰があった中で、交通安全協力団体の高齢の女性の方が、杖をつきながら壇上に上がって、教育長から表彰を受けておられました。横浜の子供たちのために協力してくださっているこういう方々のお姿を見て、感動いたしました。

以上です。

今田委員長

ありがとうございました。

それでは、別途、所管課から説明とありました「平成27年「成人の日」を祝うつどいについて」説明をお願いします。

高倉教育政策
推進等担当部
長

おはようございます。教育政策推進等担当部長の高倉です。よろしくお願いたします。

1月12日、横浜市と横浜市教育委員会、それから横浜市選挙管理委員会の3者の主催によりまして、平成27年「成人の日」を祝うつどいを開催させていただきました。市長ほか、今田委員長にも御出席いただきまして、無事終了することができましたので、御報告をさせていただきます。

石田生涯学習
文化財課長

生涯学習文化財課長、石田でございます。それでは内容につきまして、説明をさせていただきます。よろしくお願いたします。

まず、式典概要でございます。1月12日の午前、午後2回に分けて、おおよそ40分ずつ式典を開催いたしました。

場所は、横浜アリーナでございます。

内容は、例年同様、国歌斉唱等、つつがなく進めさせていただいたところがございます。

また、今年度は、新成人による実行委員会が定めた「出港はまっ子みなとみらいへ」というテーマのもとに開催いたしました。

ゲストには、三宅諒さんをお招きいたしました。ロンドンオリンピックのフェンシングフルーレ団体銀メダリストの方で、新成人の代表や実行委員とのトーク等をしていただきました。

次に、対象者あるいは参加者の数でございますけれども、今回は対象者数3万6,166人と、前回の3万4,247人と比べまして、およそ2,000人ほど増えております。参加者数も増えまして、今回は2万5,259人で、前回の2万2,571人から相当数が増えたところがございます。また、参加率も上がりまして、昨年が65.9%から、今年は69.8%となりましたので、横浜の新成人の10人のうち7人に参加していただいたこととなります。大変ありがたいことと思います。

最後に、その他のところを御覧ください。協賛につきましては、例年どおり各社の方から多くの協賛金をいただいております。

また、横浜市青少年指導員連絡協議会あるいはガールスカウト横浜市連絡協議会の方々に、会場の整理や受付等のご協力をいただきました。

最後になりますが、動画の配信を予定しておりまして、当日、成人式に参加していただけなかった新成人の方々にも御覧いただけるように、2月上旬に生涯学習文化財課のホームページに掲載をする予定でございます。

報告は以上でございます。

今田委員長

所管課から説明が終わりましたが、何か御質問等ございましたらどうぞ。よろしいですか。

私から一言。登壇をさせていただいた時、壇の上から会場を見たら大変な人数でしたので、ある意味で、横浜の持つパワーのようなものをつぶさに感じました。

以上です。

それでは次に、「第2回横浜市児童・生徒指導中央協議会の開催報告について」説明をお願いします。

斉藤健康教育・人権教育担当部長

健康教育・人権教育担当部長の斉藤でございます。

今回、1月15日に第2回の開催を行いました。第1回は26年6月に開催いたしまして、資料の1 本協議会の概要のところがございますように、スマホ・ケータイに係る問題ですとか、情報モラル教育について、協議を行った次第でございます。

それでは、今回の第2回協議会の内容について御説明をさせていただきます。

山川人権教育・児童生徒課長

人権教育・児童生徒課長の山川でございます。資料に沿って御説明させていただきます。よろしくお願いたします。

資料の1 本協議会の概要でございますが、昭和43年から40年以上にわたって、本市の青少年の健全育成に係わる関係機関の代表が一堂に会し、いじめなど子供たちを取り巻く今日的な課題について、年2回、協議会を実施しております。

協議会の構成でございますが、神奈川県警察、保護者、青少年育成団体、この育成団体とは、子ども会と青少年指導員の代表の方です。そして市立学校、また私立学校の代表の方にも御参加いただいております。それから、児童相談所、教

育委員会等の代表、約680人で構成されております。

次に、2（1）テーマについてです。今回、「子どもたちの性に関わる問題行動について考える」～今、保護者、学校、関係諸機関、そして地域ができること～、をテーマに開催いたしました。ここ数年、児童・生徒の性の被害・加害に関する事案が非常に複雑化、深刻化し、低年齢化の傾向も危惧されているところがございます。性の加害・被害の問題は、周囲の大人を含めて、人に相談しづらかったり、子供の成長の中で将来に大きく影響することを考えまして、この協議会で是非取り上げたいということで、今回はこのテーマとさせていただきます。

（2）開催概要についてですが、日時は1月15日14時から、会場は神奈川県立青少年センターで開催いたしました。内容は、ウ 次第にありますとおり、一つ目は神奈川県警察からの情報提供、二つ目が児童相談所の医師でもあります田崎先生からの基調講演、そして最後は、代表者によるパネルディスカッションという形で協議をさせていただきました。

それぞれ簡単に協議内容を御報告させていただきます。まず、情報提供につきましては神奈川県警察本部少年育成課から、少年非行、特に少年相談保護センターで扱った相談内容等を中心とした調査・研究に基づきまして、性暴力に向かう子供のリスク要因について情報提供がありました。例えば、協調性のない子供たちについて、共感性に乏しいあるいはコントロールができない状況や、性に係わる認知のゆがみ等々、そのリスク要因等についての情報提供がされました。その後、田崎先生から性的な問題についての捉え方について、御講演いただきました。例えば、子供の成長に伴って、正常な性的な関心の部分と、いわゆる性に係わる問題行動との違いは何か、ということについてのお話がありました。そこに子供の脆弱性があったり、あるいは衝動性があったりということで、その要因として挙げられる中に、養育の問題や、虐待の経験があるとのことでした。また、最終的にどのように大人は係わっていくべきかということについて、性教育の必要性の中から、体の特に触れてはいけないところ、いわゆるプライベートパーツについての御説明があったりと、非常に有効な基調講演をしていただきました。その後、神奈川県警察、児童相談所、小・中学校の校長、そして保護者の代表、市P連会長に御参加をいただいて、5名によるパネルディスカッションを行いました。その中で、軽微なものとして見逃さない大人の認識や、子供に係わる保護者、関係機関等の連携の大切さ、そして現場での対応の課題、例えば保護者の方からは「分かってはいるけれども、自分の子供と向き合った時に、その話をきちんとしていくという難しさを、実際感じています」との御意見をいただきました。学校現場からは「大切だと思いながら、これは軽微なものなのかな、ふざけた仲間なのかな、と考えてしまうなど、捉えるのがなかなか難しい」という意見が出されました。また関係機関からは「大切なことだが、なかなか問題として見えて来ないところもある。是非協力をいただきたい」等々、非常に活発な協議がされたと感じました。参加した680名の皆さんは、それぞれの現場にこの問題を持ち帰って、一步でも前に進んでいきたいと感じたことと思いますし、特に連携の部分と、それぞれの立場で何ができるのかを考えていくきっかけになったのではないかと思います。

以上、御報告させていただきます。

今田委員長

ありがとうございました。報告が終わりました。何か御質問等ございましたらどうぞ。よろしいですか。

では、どうも御苦労さまでした。ありがとうございました。

それでは、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。

まず、会議の非公開についてお諮りします。教委第68号議案及び教委第69号議案は、事前に公開することにより議会の審議等に支障が生じる案件のため、また、教委第70号議案は個人情報を含む案件のため、また、教委第71号及び教委第72号議案は人事案件のため、いずれも非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、教委第68号議案から教委第72号議案までは非公開といたします。議事日程に従い、教委第67号議案「横浜サイエンスフロンティア高等学校中高一貫教育校化に関する基本計画について」、所管課から説明をお願いします。

小口指導部担当部長

指導部担当部長の小口です。よろしくお願いたします。
教委第67号議案の資料、2ページ目をおめくりください。提案理由でございます。横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校中高一貫教育校化に関する基本計画を決定したいので提案をさせていただきます。
具体的な内容につきましては、課長から御説明いたします。

西村高校教育課長

おはようございます。高校教育課の西村でございます。よろしくお願いたします。

昨年7月に策定していただきました横浜サイエンスフロンティア高等学校の中高一貫教育校化に関する基本方針を受けまして、この度、基本計画（案）を作成いたしましたので御説明を申し上げたいと思います。よろしくお願いたします。

まず、冊子状の基本計画（案）を御覧ください。表紙の写真は、鶴見川から現在の横浜サイエンスフロンティア高等学校を撮ったものでございます。ここに「智恵の懸け橋」という、横浜サイエンスフロンティア高等学校の代表的な橋があります。校門から入りますと「知識の懸け橋」があり、知識と智恵のサイクルを意味している校舎づくりになっております。なお、横浜サイエンスフロンティア高等学校の代表的な天体ドームもよく見える写真ですので、ここに掲載させていただきました。

それでは、1ページを御覧ください。第1 横浜サイエンスフロンティア高等学校の中高一貫教育校化について御説明いたします。この中で、附属中学校の開校時期につきまして、基本方針では、平成29年4月を目途に開校しますという文言で策定いたしましたけれども、計画を練っている段階で、4月に開校できる見込みとなりましたので、目途という言葉削除し、4月に開校しますという言葉に変えさせていただきました。

他は、基本方針どおりです。

2ページ、第2 中高一貫教育校の基本理念を御覧ください。

まず、現在の横浜サイエンスフロンティア高等学校の教育理念や教育目標、教育方針等を参考にさせていただきながら、6年間の継続した一貫校の基本理念をつくりました。1ページにも書いてありますとおり、横浜サイエンスフロンティア高等学校では、世界で幅広く活躍する人間を育成することも教育理念としておりますので、その部分を受けまして、「先端的な科学の知識を基にした智恵や技術・技能を活用して、グローバルリーダーたるサイエンスエリートを育成します。」といたしました。

なお、サイエンスエリートという新たな言葉につきましては、脚注を付けております。

それから、教育目標、また教育方針に則り、子供たちをどのように育てるかに

ついて、育てる生徒像として3本柱を立てさせていただきました。(1)「サイエンスの考え方」を身に付けた生徒を育てます。(2)豊かな社会性や人間性を身につけた生徒を育てます。(3)次代を担うグローバルリーダーの素養を身に付けた生徒を育てます。この3本柱の中でそれぞれ必要なものについては、後ほど御説明したいと思います。

3ページは、6年間の中高一貫教育校の学びのイメージでございます。内進生、外進生という言葉を使って図を作っておりますが、それも脚注で説明を付けております。サイエンスの考え方、豊かな社会性や人間性を身につけた生徒、それから次代を担うグローバルリーダー、その3本の柱は常にサイクルの状態にあり、附属中学校でも回っていくイメージです。それでまた新たに、中学校から入ってくる生徒たちとの融合によって、「驚きと感動による知の探究」がサイクルで回っていきます。そして、育てる生徒像の3つの柱をそのサイクルで回していくことで、サイエンスエリート育成になると考えております。

詳しいことにつきましては、4ページ以降からの教育課程の特色のところでも述べさせていただきます。

まず、継続的な学びについてでございます。6年間を、中等教育学校であれば2年ずつの3期に分けて、基本期とか充実期などという形で分けますが、横浜サイエンスフロンティア高等学校は併設型で中高一貫教育を進めることとなりますので、「基盤形成期」と「充実発展期」という、この2期に分けた形で継続した学びを行うという考え方でございます。

その「基盤形成期」でございますが、5ページの四角枠のBasicと書かれたところを御覧ください。中学生時代にどのような形で子供たちの成長を見守るかということについて、質の高い体験や豊かな感動を仲間とともに経験し、科学の楽しさや知る喜びを、「基盤形成期」に気付かせたいと考えております。具体的な内容について、そこに例として取り上げさせていただきました。

また、高校時代といいましょうか、「充実発展期」では、内進生と外進生がここで一緒に学ぶこととなります。そこで互いに切磋琢磨して、バランス良い融合により潜在的な独創性を引き出すという目標を立てながら、現在の横浜サイエンスフロンティア高等学校の様々な活動を、更に充実させたいと思っております。

そして、先ほど申しました育てる生徒像の3つの柱を、教育課程の基本方針といたしました。「サイエンスの考え方を養う」「豊かな社会性や人間性を育む」「次代を担うグローバルリーダーを育てる」という3つの柱で、教育課程の基本方針を立てたところでございます。

4ページの知識と智慧のサイクルにつきましては、既に、現在の横浜サイエンスフロンティア高等学校がこの考え方で成果を上げている状況でございます。スーパーアドバイザーの和田先生が特にお力を入れて、生徒たちにこの言葉を随所でお話いただいているところでございます。

6ページをお開きください。ここからは、新たにつくる附属中学校の教育課程の基本方針の、先ほど申し上げました3つの柱につきまして、シラバス図を入れて一つずつ述べさせていただきました。

この3つの柱について、例えば「サイエンスの考え方を養う」という基本方針1ですが、この中にも大きく3つ、柱を立てております。一つは「学ぶ楽しさ・知る喜びに気付く」というものです。そのために、例えば理科ですとかサイエンススタディーズというような教科等のシラバスづくりを、これから先、行っていくこととなります。また「科学を多面的にとらえる」、そして「課題解決に向かう探究力を鍛える」という大きな柱を立てさせていただきました。

なお、方針の冒頭に、学ぶ楽しさや知る喜びに気付くとありますが、その中では当然ながら自己の感性、自分のひらめきというようなものの大切さに気付かせたり、学ぶことのすばらしさも感じてくれるようなシラバスづくりを、これから行っていくところでございます。

それから、基本方針2「豊かな社会性や人間性を育む」についても、「相手を思いやる気持ちと責任感を養う」「将来を切り拓く力を育てる」「文化的素養や豊かな感性を育む」という3つの柱を立てまして、各教科等の重要な柱にしたいと思っております。

おめくりいただきまして、8ページを御覧ください。基本方針3「次代を担うグローバルリーダーを育てる」について御説明いたします。これも大きく3つの柱を立てております。「異文化間コミュニケーション力を育成する」「世界的規模の課題に関心を高める」「組織的な活動やリーダーのあり方を学ぶ」ということで、これらを中学時代から学んでいただくことで、次代を担うグローバルリーダーにつなげたいと思っております、各教科等との関わりを図で示させていただきました。

9ページを御覧ください。それらの教育課程を進めるに当たり、附属中学校でこのような特色ある教育を、これから先、行ってまいります。附属中学からの生徒は高等学校に入るための入学者選抜がないということもありますし、また、授業数を増加しながらカリキュラムを組んでいくと、後で時間的な余裕ができます。その時間的な余裕をどのように使うかについて、述べさせていただきます。

まず、DEEP学習ですけれども、これは「探究力を育てる授業」と位置付けまして、これから先、細かなシラバスづくりを行っていきたく思っております。具体的に申しますと、単に授業を先取りして進めるということではなくて、内容を深く掘り下げて、生徒の興味・関心を引き出すような、豊かな授業を進めるということでございます。それをDEEPという言葉で呼ぼうと思っております。

DEEPのDはディスカッションということで、考察、考えながらとか、討議するとか、そういう意味があるかと思えます。それから、一つ目のEはエクスペリメント、実験ということで、科学、サイエンスを連想いたします。実験は仮説を立て、論理的に実証していきます。またもう一つは体験(Experience)のEとして、フィールドワークなどいろいろな実体験を学んでほしいと思っております。Pはプレゼンテーション、発表という意味です。Pは、いろんな意味付けができるかもしれませんが、ここではプレゼンテーションの意味で使いまして、合わせてDEEPということで、掘り下げる、探究心を養うことを狙いとしております。そして、学習を進めていく中で、最後に書かせていただきましたが、失敗を恐れず、最後まで粘り強く課題に取り組む姿勢もそこで身につくことができるのではないかと期待しているところでございます。それら続けることによって、知識と智恵のサイクルがそこにまた見えてくるであろうと思っております。

10ページの(2)「総合的な学習の時間」を御覧ください。中学校では総合的な学習の時間を「サイエンススタディーズ」と呼びまして、教科等の横断的・総合的な学習を進め、5つの力を養いたいと思えます。なお、これらを通して、横浜サイエンスフロンティア高等学校の教科で、特色があり評価を受けている「サイエンスリテラシー」とか、「グローバルスタディーズ」への円滑な接続を図りたいという計画でございます。

次に、全人教育に欠かせない道徳教育について御説明いたします。まさにグローバルリーダーを育てるための道徳教育ということで、科学における倫理観とか情報モラルについても、そこに書かせていただいたところです。そのような道徳

教育の活動におきましても、考察・討議、体験、発表・表現といった、DEEPを意識しながら行ってまいりたいと思います。

合わせて、次の(4)地域貢献はとても大事な話でございます。科学の楽しさや面白さが分かった時に、小学生や、地域の方々に発信していくという地域貢献を、子供たちが中心となって行う活動です。高校生と一緒にやって行うことで、中学生の社会参画意識を育み、また発展させることができると思っております。ここに書いてありますのは一例として、現在ならこういうことが考えられるかなと思っております。また、学校が完成しましたらいろいろなことができるであろうと考えております。

12ページを御覧ください。(5)特色ある時間についてです。授業が多いという御批判があるかもしれませんが、授業時間の中に、自分自身を開拓する取組を新たに設け、「フロンティアタイム」と位置付けました、フロンティアする自由な時間を設定しようという発想です。具体的には、13ページの(7)一日の時間のところを御覧ください。例えば4校時にフロンティアタイムを入れて、お昼休みに子供同士が交流した後に、自由な時間として、自分の研究又は相談・面談とか、様々なことに使えるよう授業時間に設定する、というようなことでございます。教育課程表は13ページに掲載しておりますが、中学3年間を通して、国語、数学、英語、理科、これを文科省の学習指導要領で定められている標準授業時数より多くして、先ほど申し上げましたDEEP学習を取り入れながら、学びを深めたいということでございます。

以上が、中学校の特色ある教育課程として計画しているところでございます。

14ページからは、高等学校の特色ある教育だけを抜き出しながら、内進生と外進生による、併設型の高等学校をつくる効果について、「サイエンス教育の先進校としての新たな創造」という題名で書かせていただきました。中高一貫校として、今、横浜サイエンスフロンティア高等学校の活躍を更にステップアップさせるような、新たな創造という意味でございます。内進生、それから外進生の転入により、そういう効果を期待しているところでございます。

新しい発見・発明につながるような研究の充実を図り、高い学力と本人が希望する大学又は行きたい研究機関等の進路を実現したいと思っております。そして、起業につながる発想力や探究力、行動力が付くだけでなく、今、言われている海外大学等への進学も、更に多くなるのではないかという期待がございます。

それを実現させるための高校の教育課程表につきましては、「サイエンスの力」と「言葉の力」のところで、一例をお示ししております。これについては、学校としても研究を行っているところでございます。

更に、15ページでは、課題探究型の学習を進めるための取組について書かせていただきました。既に、この「サイエンスリテラシー」や「グローバルスタディーズ」という教科は、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)やSGH(スーパーグローバルハイスクール)の取組として行っております。「サイエンスリテラシー」では、横浜市立大学との連携によるゼミ等を行っています。大学の先生方のお力をお借りしながら、このような研究を現在も進めているところでございます。また、海外大学等において、口頭発表をする機会がございます。これらも更に充実させていきたいと考えております。「グローバルスタディーズ」についても同様でございます。

それから、大きな特色の一つとしてありますのが、海外研修・姉妹校交流です。これからもっと発展させたいと考えております。最終的にグローバルな人材、またサイエンスエリートという最終的な目標に近づくために、世界に通用するコミュニケーション力を育てるために、ここでも3つの柱を立てましたが、こ

これらの取組を通して、グローバルリーダーとしてのコミュニケーション力を付けさせたいという思いがございます。

16ページ 第4 施設・設備の整備について、お話をさせていただきます。基本方針で策定しましたとおり、現行施設の活用を基本としながら整備を行います。

2 施設の整備方針(2) 主な施設・設備の整備内容を御覧ください。現在あるのは一般教室24教室でございます。これを選択教室等に使っているわけですが、それを今回全て普通教室として使用いたします。ただ、中学校は高校とは異なる教育課程でございますので、それに必要な、例えば金工・木工室というものを改修によって整備してまいります。それから、少人数教室とか選択教室が少なくなりますので、それらについても整備をして、教育活動に支障のない形にしたいと考えております。また、管理棟について、特に職員室でございますが、現在、横浜サイエンスフロンティア高等学校の教員は、一つの職員室を共有して使っております。中・高が一体となる形で、整備に入りたいと思っております。

それから、教職員の配置でございますが、これについても安定した学校経営、特色ある学校経営ができるよう、配慮した人事配置を計画しております。また、高等学校の教員が中学校で授業を行うとか、研究機関や大学、例えば先ほど横浜市大のお話をさせていただきましたが、そういう大学の先生方、研究者の方々とか、外国人ネイティブの先生方による特色ある授業の検討も、進めてまいりたいと思っております。

17ページを御覧ください。附属中学校の入学者の決定についてでございます。入学者をどのように決定していくかについて、計画いたしました。

まず、志願資格でございますが、志願者本人及びその保護者が横浜市内に住所を有する者といたします。2クラス80人という募集でもありますし、中学生ですので通学面で安全を考慮しなければいけないということもございます。それから、選考方法につきましては、適性検査及び調査書等により、附属中学校で学習するための適性や学ぶ意欲、基礎的な学習状況を総合的に選考しながら、入学者を決定してまいります。

入学定員は、1ページにもお示ししておりますが、80人でございます。

それから、開校までの整備スケジュールは、本日、計画を策定させていただきますと、その後、整備等を進め、開校へ向けて順次練っていきたく思っております。

長い説明となりましたが、よろしく申し上げます。

今田委員長

所管課から説明が終了しました。御質問等ございましたらどうぞ。

坂本委員

よろしいでしょうか。

今田委員長

どうぞ。

坂本委員

今回の計画は、これに携わる方々の魂が分かるくらい、まとまっていると思います。

その上で、少し高望みかもしれませんが、是非、変えた方が良く思うところが一つあります。他にも、希望として変えてほしいと思うところがあります。まず、2ページ目です。中高一貫教育校の基本理念のところですか。これは、とても大切なことで、それぞれは非常に良くまとめられていると思います。ただ、このように、教育理念、教育目標、育てる生徒像と並んだ時、絶対にどこか

らも落ちてはいけないキーワードがあるはずなのです。それを落としてはいけないのです。単に理念を書く時、目標を書く時、生徒像について書く時は、その書き方が変わっても良いのですが、必要とされる理念やキーワードは絶対に落としてはいけません。後ろのページでは、サイエンスに特化している面と、それから6年生教育における人間性、感性という面とが両方良く含まれた文章になっています。しかしながら、1の教育理念のところには「鋭敏な感性を育み」という言葉があっても、要するに人間性や社会性といった6年生教育に期待されている理念が、ここには言葉として入っていないのです。書いている人はもう十分分かっているのですが、やはり絶対に逃さないキーワード、題目は決めておいて、それをどこであっても入れることによって、その言葉は内外ともに身になり肉となっていくのです。そういう意味で、1に少し工夫があれば更に良いと思いました。また、3 教育方針に入っているキーワードのうち、2 教育目標に入っていない言葉はきちんと入れたほうが良いと思います。

それから、11ページの道德教育についてです。見出しに道德教育、とありますが、本文に書いてあることと馴染むのだろうかと思ってしまいました。道德教育自身は良いのですが、世の中で言われている道德教育をここで表現するなら、いわゆる人としてのシチズンシップなのです。それから、もう一つは公共心なのです。ここに書くならばそういうことです。いわゆる一般的な道德ということであれば、もちろんここに入っています。もっと基本的なところで、先ほど申し上げたことが道德教育という言葉でうまく表現されるのだろうかと思いました。

それから、一番最後のページの施設・設備の整備のところですか。注意して書いていることは分かるのですが、今の時代、設備に対する考え方が大きく変わっています。今までの設備に対する考え方と、将来とでは違います。今までの設備の管理というのは、とても良いものをつくって、それを良い状態でいつまでも維持することが設備管理の鉄則だったのです。今、役所から民間まで行っている一番大切な設備管理というのは、設備を生き物として扱って、その時代性や働く人の需要、使う人の需要に応じて、一番働きやすく、使いやすく、言ってみれば施設のホスピタリティーを発揮しながら、かつ効率的に、安く、ちゃんと動いて、それから快適に、働いている人にとって一番良いマインドで働けるようにすることなのです。ですから、従来の管理と違って、総合管理とかマネジメントという言葉が生まれているのは、これまでのただ守ることではなくて、時代に即応し、柔軟に変えていく設備管理が大切だからなのです。

特に、サイエンスというのは急速に進歩するわけです。そうすると、あるサイエンスが花形であっても、違う時代が来たり、別の関心が出て来れば、実験の仕方もがらっと変わるようなことが出てきます。そういう意味で、サイエンスというのは、最も施設が中身を拘束してはいけない教育だと思うのです。今までの教育というのは、職員室でも学校でも行ってみると、中身がまずあって、みんながそれに合わせて生活しているというのがとても多いのですが、ここはこれからですから、そういう精神をどこかに入れるべきだと思います。

良いものをつくったらそれで終わりではなく、発注する時も管理をする時も、設備のライフサイクルみたいなものをうまく考えていく必要があります。10年経ったらどう変わっていくか、それから10年経った時のライフサイクルコストをどうやって考えていけば持続できるか、また、補修や改修をいつ頃やったら良いのか、ホスピタリティーがきちんと働いているかどうかを常に考えて、それを事業者に聞いたり、使う人に聞いたり、先生に聞くということをしないと、最先端、グローバルとは言えません。人間味があふれて、人が生き生きと活動できるのは、やはり施設の影響がすごく大きいからなのです。ですから、何もがらっと変

える必要はないのですけれども、そういう精神を新しい施設に入れた方が、将来良いのではないかという感じがします。

以上でございます。

今田委員長

よろしいですか。どうぞ。

小口指導部担当部長

貴重な御意見ありがとうございました。

3点ほど御指摘をいただいたと思います。

まず、1つ目のキーワードです。今、坂本委員も触れられましたけれども、感性については我々も大事であると思っております。2ページのところでは、冒頭の教育理念の中に出てきます。具体的には、例えば6ページの教育課程の基本方針1のところ、1つ目の白丸の最後の部分に、「自己の感性を磨くことや学ぶことのすばらしさを体感します」とありまして、また7ページの3つ目の白丸のところに、太字で「文化的素養や豊かな感性」とあります。サイエンスフロンティアの生徒たちには、この感性というのが非常に大事であろうということで、このようなキーワードを盛り込ませていただきました。

次に2つ目の道德教育についてです。11ページですけれども、そちらに道德教育のねらいとしまして、6点ほど書かせていただいております。やはり一般的な、いわゆる中学生としての道德という部分も3点目以降に書かせていただいたつもりではありますが、少し言葉足らずであったかもしれません。その上で、サイエンスの附属中ですので、科学に関する倫理観、情報モラルが大事であろうと思ひ、文言に入れたところでございます。

それから、最後に16ページの、施設・設備のお話がありました。当然の御意見だと思ひます。これから具体的にレイアウトをしていく中で、柔軟性とか多様性の部分について、なるべくコストをかけない方向で工夫することで、今後に生かせればと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

坂本委員

ちょっとよろしいでしょうか。

今田委員長

どうぞ。

坂本委員

大変ごもった御説明をいただき、そのことは全部理解するのですが、まず申し上げたいことがあります。先ほど「そのことについては、あそこ書いてあります、ここに書いてあります」との御説明がありました。それは全部分かった上で、「あそこ書いてあります、ここに書いてあります」ではなく、大切なキーワードは、重要なところにどこでも書かれていなければならないのです。特にこの2ページについて「ここには書いていなくて、こっちに書いてあります」というのは、私の言っている意味と少し違うのです。

ある所は感性だけ出てきて、またある所は社会性、人間性と出てきていますが、結果は全て同じことなのです。事務局の方の心の中は分かった上で、プレゼンテーションのやり方を申し上げているのです。そこを少し考えていただきたいと思ひます。

それから6ページの感性と、7ページの人間性、文化的素養とは違いますよね。7ページは科学者としてのひらめきで、人間としての感性なのです。ですからそういうものを全部包含したキーワードを、やはり最初のほうにきちんとまとめる必要があるのではないかということをお願ひしました。

また、道德についてですが、外国ではシチズンシップと言ひますか、それが一

番大事なのです。市民として国を支える、人間として恥ずべきことはないかという、そこが道德の基で、日本の道德と少し違うように思います。

それはそれとして、先ほど言い忘れましたが、いろんなところにディスカッション、ディベートというのが入っていますね。これは日本の教育として画期的なことだと思います。教科書があっても先生の話があっても、そこからすぐ実験を行うのではなくて、その間にディスカッション、ディベートがあるということはものすごく重要なことで、先ほど評価し忘れたのですが、これは大事だと思います。

最後の施設のところは御賛同いただいて大変ありがたかったのですが、「実際にやるときにやります。」と言うのでは、これを作った意味がありません。それならば、しっかり書いていただきたいと思います。

たくさん言いましたけれども、とにかく今までの感じと違う、もっと有機的に、時代に合って、需要に合って、それからそこで使う人のホスピタリティーを考えて、柔軟に施設を生かして、施設と人が一体になって高い知性と感性と知恵を見出していくという、そういう感覚がきちんと誰に対しても伝わる必要があるのではないかと思います。委員長、長くなってすみませんでした。

今田委員長

いえいえ、とんでもないです。間野委員、どうぞ。

間野委員

今、坂本委員の話を聞いていて、16 ページ、17 ページに関して私ももっと早く気付けば良かったのですが、完成年度までのスケジュールが無いですね。開校6年後の平成34年に初めて卒業生が出るわけですが、平成29年から34年までの間どうするのかというのが、「第8」として書かれてあるとイメージが湧きやすいと思いました。その間、平成31年には多分10周年記念式典を行うであろうし、平成32年にはPFI契約が満期になりますので、またそこで新しい契約を継続するのかどうかということや、あるいは改修も含めたスケジュールが無いので、見せ方が少してんでんばらばらだという印象を受けました。平成34年になると大学入試改革は完全に終わっていると言うか、違う入試方法になっている可能性があると思いますし。

今ここにいる人の中で、平成34年まで、少なくとも完成年度まで見届けられる人は多分いないと思いますが、その辺りを見通して計画を作った方が良いと思います。そう考えると、坂本委員がおっしゃるように、16 ページの施設・設備について、教育課程上、必要な最低限のことは書いてあるのですが、教員がもっと快適に過ごせる、更衣室があったりシャワーがあったり、あるいは食堂があったり部室を充実させたりというように、周辺の施設・整備についても手を付けておいた方が良いと思います。なるべくお金をかけないで、と言うのも分かるのですが、今、時代は水素社会になっていると思いますし、エネルギーのことも含めて、理想的な教育というのが何なのかという視点から、平成34年度までもう少し見通した方が良いのではないのでしょうか。あるいは見通したというポイントを書いておいた方が良いのではないかと思います。

あと、細かいところなのですが、13 ページ、(6)の上の囲みが「中学校3年間を通して国語、数学は140時間」となっています。これは標準時数より多くはないですね。これは誤記でしょうか。理科は35時間、英語が105時間になっています。

これはタイプミスでしょうか。

西村高校教育

いえ、違います。

課長	
間野委員	外国語、国語、数学は175時間ですよね。
西村高校教育課長	英語は105時間です。
今田委員長	3年間でやるということです。
間野委員	ああ、3年間でですか。
今田委員長	35時間の3倍ですね。
西村高校教育課長	数学は2年生が105時間で、65時間多く教えます。
間野委員	分かりました。理科は1年の時の分だけですね。
西村高校教育課長	はい。
間野委員	はい、分かりました。 以上です。
今田委員長	今の17ページの第8云々という話について、何か説明はありますか。 はい、どうぞ。
西村高校教育課長	すみません。中高一貫教育校化の基本計画ですので、開設までのスケジュールを書かせていただいております。 それから、各学校では毎年、教育委員会に要望する内容ですとか、学校の将来像等を考えていきますので、基本計画の中では、完成して開校する時にどうなっているかということまでは述べております。しかしながら、その後の6年後、10年後までを基本計画の中には掲載いたしませんでした。 また、間野委員がおっしゃった整備までのスケジュールですが、平成29年4月の開校時には、中学3年生まで全て入るだけの24教室の普通教室と金工・木工室等について、今年4月から設計のスケジュールを組んでおります。 坂本委員からも御意見をいただきましたけれども、今、横浜サイエンスフロンティア高等学校はPFIにより管理しておりますので、新しいニーズに対応できるような施設を毎回それなりに整備しておりますので、そういう意味では、今の整備方法で中学生を迎えた時でも、子供たちにとっても、教員にとっても、快適な整備ができるものと思っております。
今田委員長	よろしいですか。
坂本委員	今、間野委員がおっしゃったことに対してお答えがあったのであれば、それをざっとでも書くという手はあるのではないのでしょうか。先が全然分からないというのではなくて、もう既に計画されているのであれば、少し先の事も書いたら良

いと思います。細かく書く必要はないですから。

それからもう一点、私ばかり発言して申し訳ありませんが、気が付いたところがありまして。今、PFIとおっしゃったので一言。役所が今後、いろいろな発注をしていく時に、今、民間は施設についてもものすごく知恵を持っているのです。ところが、発注者がいい加減だと、その知恵を全部出さないのです。要するに、発注者が厳しければ、その厳しい要望に応じて、出せる技術も知恵も、民間は今競争が激しいですから、幾らでも蓄えています。そういう意味で、いろんな発注をされる時、いかにこちらが厳しい事を言うかが重要であり、「ああ、あの人は施設・設備のことを知っているんだな、きちんと手の内を分かっているのだな」ということが相手に分かるか分からないかで、全然やり方が違ってきます。

一点追加しておきますが、8ページ一番下の所に「組織的な活動やリーダーのあり方を学ぶ」というのがあり、そこに「幅広い異年齢集団による活動」と書いてあります。それはそうだと思うのですが、見出しから言うと、学年が違うだけではなくて、多様性をいかに組織化するかというのがグローバルの大切な事ですので、そういう言葉があったほうが幅広いように思いました。中学から高校まで、最初からの人と、途中からの人もいますから。

西川委員 よろしいですか。

今田委員長 どうぞ。

西川委員 今の所に関連してくるかもしれないのですが、子供たちに豊かな経験を与える中で、学校行事や生徒会活動、また部活動等がいろいろ係わってくると思いますが、中学校の生徒たちは、部活動についてとても興味を持っています。どんな部活動があるのか関心がありますが、7時間目までやると部活動ができる時間帯は非常に限られてしまうのでしょうか。

西村高校教育課長 はい、そうです。

西川委員 それは中学生だけで実施することを考えていらっしゃるのでしょうか。

西村高校教育課長 いや、やはり中高一貫でありますので、高校生に学ぶという点で、高校生と一緒にできるものについては、部活も一緒にすることになるかと思えます。

西川委員 子供たちは部活動にかなり興味を持っていて、友達とどのようにやっていこうかと思っているでしょうから、その辺も少し考えていただけたらありがたいと思います。

それから、16ページの管理諸室について、職員室が中・高一体であることが、とても良いと思います。子供の心の発達についてや、また学習の状況についての情報交換等ができることが、とても大事な事であると思えます。大変すばらしい発想だと思います。よろしく願いいたします。

あわせて、中学生が自分から望んで、志願してこの学校へ来た生徒だけであれば良いと思いますが、それでも途中で学校生活に迷う生徒も出てくると思うのです。その時の相談窓口ですとか、悩みを受け入れる体制についてもよろしく願いしたいと思います。

今田委員長

どうぞ。

長島委員

ちょっと教えていただきたいことと、質問があります。まず、こういう資料を作る時には、説明文の中で字体を変えたりして内容をアピールしますよね。この資料では、教育理念等に明朝体を使って説明をしていて、図柄や他の文章にはゴシック体や丸ゴシック体を使っています。しかしながら、なぜ12ページの自主研究等の本文が明朝体なのでしょう。その理由を教えていただきたいと思います。どうしてもこれをアピールしたい所なのか、それとも、これは説明文なのでしょう。こういう部分はすぐに目につくので、それを教えていただきたいと思います。

また、1つ目の質問ですが、4ページ、5ページについてです。4ページに基盤形成期と充実発展期の説明がなされていて、なおかつ右ページにもその2つの図と表が書いてありますので、思わず両者を見比べてしまうのです。なぜこの書き方にしたのでしょうか。

2つ目は、今、西川委員がおっしゃったように、こういう部活動がありますとか、こういうことをしていますという記載が、確かに無いと感じました。高校では余り時間が無いため、週に3、4回部活動の指導をされているかと思うのですが、中学も同じように制限的な部活動をしていくのかどうかというのが質問です。

西村高校教育
課長

ご指摘ありがとうございます。まず、字体でございますが、基本的に枠組みの中に記載している文章につきましては、長島委員のおっしゃった通り、字体は丸ゴシック体でして、そうではない所については明朝体で、また、強調する所についてはゴシック体で書かせていただいています。そういう意味で言いますと、12ページの所は枠でくくっておりませんので、普通の明朝体を使っております。

それから、4、5ページにつきましては、おっしゃる通り、左側の4ページでは説明として少し長い文章になっています。それを短縮し、要約したのが5ページです。この形にしますと、恐らく右側の図の方に目がいくであろうと思いましたが、上の基盤形成期、充実発展期の説明を枠で囲んで簡単にまとめました。

部活動についても御指摘がございましたけれども、部活動の果たしている役割は当然大きいのですが、教育課程上何時間やるのかを、この計画に掲載するのが良いのかどうかということがございます。新しく作る学校の計画の中で、学校の経営方針等、細かい中身までここで計画するかというのはいかがなものかということもありましたので、時間数ですとか、どんな部活動があるのか等については述べておりません。

今、委員の方々からいろいろおっしゃっていただいたことについては、学校が開校する前から、例えば校長候補者等が決まった時に、まさに、これを基調にした学校基本方針が細かく出ると思います。そこで先生方の御意見を参考にしながら運営させたいと思っております。

以上です。

今田委員長

はい、どうぞ。

間野委員

そういった意味では、私が言ったことは準備室になるかもしれないのですが、ただ、横浜サイエンスフロンティア高等学校でユニークで独創性のある子供たちを育てようとしている精神を、中学にも是非引き継いでいただきたいと思えます。例えば標準服を廃止して、全部私服にするとか、髪形も自由だとか、何かそ

ういう感性と言うのでしょうか。平成34年までを見据えた時に、ここには教育課程上、必要なことが書いてあるのですが、そういう部分も取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

企業でも、例えばグーグルにしるアップルにしる、今までの会社の雰囲気とは全く違いますよね。たまたまですが、アップルの研究所が横浜に来ることもありますし、従来の公立学校から更に一步、時代を先取りして、まさにフロンティアに行くような、本当に自由で闊達な学校にしていくのだという、いわゆる精神と言うのでしょうか、そういう意見もあったということ、準備室のほうに是非伝えてもらえればと思います。

今田委員長

ありがとうございます。いろいろな意見が出ましたけれども、私も一つだけ。

11ページの道徳教育という表現についてです。これは学習指導要領との係わりで出てきているのかも分かりませんが、この中高一貫のサイエンスフロンティア中学には、何かもう少しふさわしい表現があるのではないのでしょうか。

求める科学的な倫理観や価値観を「道徳教育のねらい」という表現で書くのは良いのですが、道徳教育という見出しで、大きく一つ掲げるのはどうなのでしょう。新しい基本計画全体の中の、いろんな部分で触れることは良いと思うのですが、中高一貫教育についての限られた説明の中で、もう少し記載の工夫をした方が、誤解が無いと思います。

大事なことを教えるのは必要です。日頃の私の道徳に対する言動からすると、皆さんにとってこの発言はいつもと違うと思われるかもしれませんが、ここは中高一貫の科学の研究を行う場ですから、サイエンスブランドの育成といった、どこかセンスが問われるような、しっかりとした精神がむしろ必要だと思います。

以前から少し気になっていたこととして、中学ですから学習指導要領の流れの中で道徳教育を行いつつ、平成30年に特別の教科になるということで、ある意味で、ここではそれをきっちり押さえていると思うのですが、表題の文言表現として出てくるのがどうなのでしょう。事務局でもその点を議論をされたのかも分かりませんが。

西村高校教育課長

今、委員長からお話しいただきましたが、道徳という言葉を使うことについて、我々もいろいろ考えました。坂本委員がおっしゃったように、シチズンシップでもあるし、情操的なものの教育でもあるかもしれない、またサイエンスリテラシーの様な要素も入っていると思います。

今、日本の教育において、高校も含めて、教科の中に道徳という言葉を入れる動きがある中で、道徳に対する捉え方が非常に固いように思います。道徳というと、どこか変な話ですが、偉人伝とか、偉人から学ぶとか、凝り固まった要素しか見えないように思いますが、今後、ここでの教育の中では、道徳教育という言葉一区切りの中に、さまざまな事を考えていかなければいけないのではないかと考えております。

全人教育、とよく言われますが、その中にそういう倫理観もありまして、当然ながら道徳という言葉を使いながら教えていく必要があるのではないかとということで、ここではあえてグローバルリーダーを育てる道徳教育というような意味合いで、そのまま言葉を使わせていただいたところでございます。本当に表現が稚拙かもしれませんが、そういう思いもあることを御理解いただければありがたいと思います。

坂本委員

道徳教育、と一言で言わなくても、公共マインドとか、公共心とか、市民ニー

ズとか、それから倫理性とか、幾つか重ねないと出ないのかもしれませんがね。おっしゃるように、一言にまとめようとする、良い言葉が出てきません。さすがの委員長も適当な言葉をおっしゃいません。こう書け、とおっしゃらないところを見ると、思い浮かべるのが難しいのだと思います。

今田委員長

なかなか難しいですね。

ただ、全体の流れの中で見てみると、事務局の熱い思いが分かります。ここに書いてあることは大事な部分だろうと思うのですが、何と言いますか、もう少し科学的な雰囲気を持った言葉があるのかもしれませんが。そんな気がするのです。私は以前からいつも、道德教育が大事だと思っている事には間違いはないのですが、このように書くのが良いのかどうか、考えあぐねています。

西村高校教育課長

13 ページの中学校の教育課程表を御覧ください。現在、中学校の教科等につきましては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、と普通の教科がありますが、今度、道德が教科としてできます。それから、総合的な学習の時間と、特別活動があります。

これらの言い方の中で、サイエンスフロンティア中学は、何をするのかということが大事だと私は思っています。そういう意味で、道德という教科だけの時間だけではなくて、学校教育全体も含めて道德を考えます。道德の時間はもちろんやりますけれども、それ以上に、今申し上げましたような、特徴を持たせた道德教育をねらうことにより、道德という言葉をあえて使わせていただいたところでございます。ですからわざわざ、総合的な学習の時間、という表現で書きました。

サイエンスフロンティアの場合は、サイエンススタディーズと呼ばせたいというところがございますが、正式な名称は、総合的な学習の時間でございますので、その流れでこの計画を作ったところでございます。

今田委員長

そういう意味で、グローバルリーダーを育てる道德教育という考え方は、まだ良いと思います。最初の表題に道德教育とすることが、少しどうなのだろうかと思っているのです。具体的にはグローバルリーダーを育てる道德教育だということの良いと思うのですが、そこが少し誤解を招かないだろうかという気がしたものですから。

小口指導部担当部長

いろいろと貴重な御意見をありがとうございます。今、御意見をいただきました中で、少し修正をした方がいい、あるいは修正できる部分については、こちらのほうで、また手を加えさせていただいてもよろしいかと思っておりますが、いかがでしょうか。

今田委員長

教育長、どうぞ。

岡田教育長

正直に申し上げますと、ここは最後まで検討したところでございます。なかなか良い言葉が浮かばなかったというのが実態なのです。こういう言葉だったらうまく言い当てているのではないか、というのをアイデアとしていただければ、大変ありがたいと思います。

今田委員長

ふさわしい表現を、よく考えてみましょう。

西川委員	質問してもよろしいですか。
今田委員長	はい、どうぞ。
西川委員	先ほど西村課長からお話がありました、中学校の教育課程表についてです。これに基づいてお書きになっていらっしゃると思うのですが、中身はそのまま残したとしても、サブタイトルの所を工夫されたらどうなのでしょう。これは残さざるを得ないのでしょうか。
西村高校教育課長	そうですね。
長島委員	科学、ロボットではなく、人間を育てるということをお伝えになりたいわけですね。ですから、そういう言葉が何かあれば良いのではないのでしょうか。それを、道徳の時間の中で見出すとか、グローバルリーダーにもなり得るような、人間性のある人を育てるのだということが分かる言葉にすれば良いのではないのでしょうか。人を育てるとか、人間性があるとか、そのような言葉はどうかと思いました。
坂本委員	委員長、公人教育というものとも、また違うんですね。
今田委員長	ちょっと違います。
坂本委員	そうですね。ですから、いろんな意味があるんですね。ただ、少なくとも、この道徳教育の中身に、あまり道徳らしいことが入っていませんね。
西村高校教育課長	道徳の流れとしたら、今、委員長がおっしゃったように、その下の4つは、ほとんどの道徳の教科でも、取り上げられるだろうと思われます。上の2つはサイエンスフロンティアの特徴を捉えたものを入れております。
坂本委員	倫理観や情報リテラシーとか、情報ルールとかがそうですね。公共マインドと言うか、要するに社会のルールと言うのが基本ですね。それがこの文章にも無いし、今までの道徳教育の中にもそれは入っていますけれども、何か道徳教育と言うと限界があるような気がしますが、一言で言わないで、という形もあるかもしれません。
今田委員長	9ページのDEEP学習などは、確かに、この学校の特色を出していると思います。それを踏まえると、例えば11ページのこの道徳教育をすごく充実させて、今の35時間が特別な教科になるということですから、それに従っていけば良いと思いますし、更に時間を割いてやるということでも無いのではないのでしょうか。道徳は道徳としてきちんとやるということであって、それがこういう形で表題に、しかも固い感じの表現で出てくるのは、サイエンスフロンティアのイメージとして腑に落ちません。インターナショナルとまでは言わないけれども、センスがあるような表現で、もう一段工夫すると良いのではないかなという気はずっとしています。いや、これは皆さんそれぞれ意見があるかも分かりませんが。このスケジュールでいくと、今日はこの基本計画策定ですから、この後すぐに

	記者発表を予定しているのですか。
西村高校教育課長	はい。今日承認していただければ、記者発表を行う予定です。
今田委員長	11 ページの所を含めて少し議論が出ていますから、どうなのでしょう。
小口指導部担当部長	それは、委員長がお決めいただければよろしいかと思えます。
今田委員長	スケジュールの問題もあるでしょうが、委員の皆さんがいろいろ検討された中で、17 ページの最後の所で、「第8」を設けるかどうかは別として、スケジュールのイメージが多少見えるようにした方が良くもありません。次年度以降、債務負担行為になる部分は書けないかもしれませんが、もう少しイメージができるものを書いていただくと良いかもしれませんね。 それでは、教育長の所でまた少し議論をしていただいて、そこからスケジュールをうまく進めて行くということによろしいですか。それとも、皆さんはどうお考えですか。
小口指導部担当部長	委員の方々にはその都度御足労いただいておりますので、委員長あるいは教育長と決めてさせていただく形で御一任いただければ、それでもよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。
今田委員長	一部の字句について議論になっているから、それでは、その部分については教育長と議論をしていただいて、結果はまた皆さんにきちんと報告をする、そういう条件付きで今回の案を了とすることにいたしましょうか。よろしいですか。
各委員	<了 承>
今田委員長	それでは、その部分については、そういうことでよろしく申し上げます。御苦労様でした。 その他、委員の皆さんから何かございますか。 事務局から何か報告事項はありますか。
伊東総務課長	1月13日、個人の方1名から校務システムの運用に関する請願書が、また1月15日、1団体から日の丸・君が代に関する要望書が提出されております。 これらの請願書等につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合については、次回以降にお諮りしたいと思います。 次の教育委員会定例会は、2月6日金曜日の午前10時から開催する予定でございますので、よろしくお願いいたします。
今田委員長	皆さん、よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会定例会は、2月6日金曜日の午前10時に開催する予定です。別途通知しますので、御確認ください。 なお、今の件については、教育長と調整をした上で、その結果をまた皆さんに御連絡をして、了解をいただければ、それで一応の区切りということにさせていただきます。

次に、非公開案件の審議に移ります。
傍聴の方は御退席願います。また、関係職員以外の方も御退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<非公開案件審議>

教委第68号議案「平成27年度歳入歳出予算案に関する意見の申出について」
(原案のとおり承認)

今田委員長

ここで、1時間の休憩とさせていただきます、午後1時00分から再開といたしたい
と思います。

[休憩開始時刻：午後0時00分]

(休 憩)

[再開時刻：午後1時00分]

今田委員長

それでは、ただいまから教育委員会臨時会を再開いたします。
ここでまず、先ほど審議いたしました教委第67号議案「横浜サイエンスフロン
ティア高等学校中高一貫教育校化に関する基本計画について」、所管課から報告
をお願いいたします。

小口指導部担
当部長

指導部担当部長の小口でございます。先ほどは御審議いただきまして、ありが
とうございました。御指摘・御意見等を踏まえまして、文言を整理いたしました
ので、ご報告させていただきます。

西村高校教育
課長

先ほどはありがとうございました。
まず2ページの基本理念の所に、坂本委員から社会性、人間性というのが大事
な言葉であるので、常に使って、教育理念にも載せるべきだというお話をいた
だきました。まさにその通りだと思います。そこで、教育理念の中に「豊かな社会
性や人間性を育みます」の文言を追加いたしました。なお、育てる生徒像につき
ましては、そのままといたしまして、教育課程にも生かしたいと思っております。

次に、10ページです。先ほど、総合的な学習の時間の説明の際、教育課程で使
っている道德教育という言葉を用いておりましたが、それにこだわることはなか
ろうということになりました。表題「(2)総合的な学習の時間 ～サイエンス
スタディーズ (Science Studies)～」を、「(2)サイエンススタディーズ
(Science Studies) ～課題探求型の学習～」に修正いたしました。

また、11ページの表題「(3)道德教育 ～グローバルリーダーを育てる道德
教育～」を、「(3)豊かな心 ～グローバルリーダーを育てる道德教育～」に
修正いたしました。さらに、枠内の後段「グローバルリーダー」の前に「豊かな
心を持つ」を入れさせていただきました。これらのすべての活動を、道德教育の
ねらいということで捉えております。

14ページでございます。間野委員から、高等学校の入試の変化等に対する考え
方について、書き込むべきではないかとの御意見をいただきました。そこで、枠

内の最後に「サイエンス教育の先進校として常に特色ある教育課程の研究開発を進めます。」の一文を入れさせていただきました。これからいろいろ想定される、高校教育課程の変遷などに対応してまいりたいと思っております。

16ページでございます。施設に関するホスピタリティーのお話をいただきました。それにつきましては、「1 施設・設備の基本的な考え方」一段落目の最後に、「また、将来にわたって効果的な学習環境の整備を行います。」の一文を入れさせていただきました。それから、二段落目の冒頭「また」を「なお」に文言整理いたしました。さらに、「2 施設の整備方針 (1) 施設整備方針」二段落目の「諸室を整備するほか、」以降を、「諸室を整備します。」に修正おいたしました。

また、最後の開校までの整備スケジュールが少し分かりにくく、説明不足ということもありましたので、開校までの全体スケジュール等をお示しすることといたしました。開校までの基本計画となりますので、これ以上細かい事が書き込まない部分がございます。この内容で計画を立てさせていただければと思っております。

今田委員長

所管課から報告がありましたが、御質問等ございますか。
特に御意見等がなければ、この修正案を承認してもよろしいですか。

各委員

<了 承>

今田委員長

それでは、この修正案で進めていただくようお願いします。

<非公開案件審議>

教委第69号議案「平成26年度歳入歳出予算案（2月補正）に関する意見の申出について」

（原案のとおり承認）

教委第70号議案「平成26年度横浜市教育委員会表彰に係る被表彰者の決定について」

（原案のとおり承認）

教委第71号議案「平成26年度横浜優秀教員表彰に係る被表彰者の決定について」

（原案のとおり承認）

教委第72号議案「教職員の人事について」

（原案のとおり承認）

今田委員長

本日の案件は以上です。
これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後1時50分]